かめ

濤音

青空文庫

まがどりのやうな冠船が翼をひろげて
那覇港内(なふわとうち)にしやんで居るうちは
薩摩の殿にはあへまいわなあ。

凛々(りゝ)しい殿のかみしも姿が眼の前に
まざまざと浮んでくるやうな。—
殿はいま露つぽい美里間切(みさとまぎり)を深編笠のしのびあるき。

あゝなさけない世となつた。
ついあけがたまでなつかしい殿御と
添寝の夢の名残は室(へや)の隅(すみ)にも残れど。

うらめしい開門鐘(けどやうがね)に空が白むと
むつくり起きあかりて仰せらるゝ
「さらばかめイしばらくは待つてくれ。」
「妾もついてゆきます」と申すと

「これが邪魔する」とはつたと叩れた腰の朱鞘。
そうしててしやで染のわか小指をにぎられたが。

はてなさけない世となつた。
膏脂（あぶら）　香　息のつまりさうな唐人と
どうして添寝ができませうか。

青空文庫情報

底本：「沖縄文学全集　第1巻　詩※［#ローマ数字1、1-13-21］」国書刊行会
　　1991（平成3）年6月6日第1刷
底本の親本：「沖縄毎日新聞」
　　1912（明治45）年1月23日
初出：「沖縄毎日新聞」
　　1912（明治45）年1月23日
※初出時の署名は「濤韻生」です。
※「沖縄近代詩集成（※［#ローマ数字2、1-13-22］）沖縄毎日新聞（明治四十二年～大正三年）篇」法政大学沖縄文化研究所、1988（昭和63）年9月20日発行では判読不可の文字を「まがどり□やうな」「姿□眼の前に」「膏脂《あぶら》□香□息□つまりさうな」と□で表示していますが、底本ではそれぞれ「まがどりのやうな」「姿が眼の前に」「膏脂《あぶら》　香息のつまりさうな」となっています。
※誤植を疑った箇所を、「沖縄近代詩集成（※［#ローマ数字2、1-13-22］）沖縄毎日新聞（明治四十二年～大正三年）篇」法政大学沖縄文化研究所、1988（昭和63）年9月20日発行の表記にそって、あらためました。

入力：坂本真一
校正：きゅうり
2018年10月24日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

かめ

濤音

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/